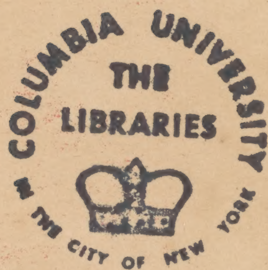
東京華新記者聯盟編著

# 民政黨罪惡史


COLUMBIA UNIVERSITY
THE
LIBRARIES
IN THE CITY OF NEW YORK

目次

附錄　高橋藏相の大演說

# 民政黨罪惡史

東京革新記者聯盟

## 馬鹿を見た國民

狼と嘘つき少年の比喩話で、嘘は惡いことだと教へられて育つた我々は、嘘を憎むこと甚しい。從つて正直に信頼することも亦甚しい。民政黨內閣が成立した時、彼等は第一に『我々は正直だ、眞面目だ、我が濱口首相の誠意に信頼せよ』と大鳴物で宣傳した。木彫りのライオンのやうな濱口首相の顏に對し、正直な國民はなる程と首肯いた。だから彼が鹿爪らしい顏して『日本の經濟を建直すためには國民は宜ろしく一時の苦難を忍ばねばならぬ』と

叫ぶや、皆觀念の目をつぶつて、彼等の爲めに善良從順の決意を示した。これは濱口の正直と彼等の宣傳を信じたればこそである。

## 然るに一切が嘘だつた

金解禁後の不景氣と二年有半に亘る血みどろの闘ひを闘つて、我々國民は果して何を得たか――。小にしては忠良なる臣民の餓死、大にしては日本帝國破産の危機ではなかつたか。危いことである、眞に恐るべきことである。だまされて塗炭の苦しみを苦しみ通した國民こそいゝ面の皮であつた。然も民政黨内閣の僞瞞は一つこの經濟政策にのみ止らない。實に昭和四年七月の誕生から六年十二月のノタレ死まで、嘘を以て終始し、インチキを以つて押し通してゐるのである。試みに組閣當初に於て宣明し公約した所謂十大政綱を左に要約して列擧する。

**一、政治の公明**　政府は專ら政治の公明を旨とし、政治の基調を向上せしめ以て庶政の皇張を期せんとす。

**二、國民精神の作興**　國體觀念の涵養に留意して國民精神の作興に力め　經濟政策の確立と相俟つて時務の匡救に努め民新一新を圖らんとす。

**三、綱紀の肅正**　嚴に綱紀を肅正するにあらざれば民風の頽廢遂に濟ふべからざるに至らんとす、政府は深く自ら警めて官紀を嚴肅にし敢て犯すなからんことを期す。

**四、對支外交刷新**　所謂不平等條約の改廢に關し我が國の支那に對する友好的協力の方針は、さきに關稅會議、治外法權會議の開かるゝに當り如實に證明せられたる所にして、政府は爾來支那時局の進展に徵し、益々同一方針を貫徹する必要を認む。

**五、軍備縮小の完成**

**六、財政及行政の整理緊縮**　中央地方の財政及行政に對し一大整理を斷行し、依つて以て汎く財界の整理と國民の消費節約を促進せんとす。陸海軍の經費に關して

も國防の支障を來さゞる範圍に於て大に整理節約を講ずる所あらんとす。

**七、國債總額の遞減**　國債の總額今や六十億の巨額に達す、依て政府は一般會計に於ては新規募債を打切るべく特別會計に於ても既定計畫の半額以内に止め、國債總額は昭和四年度末現在額より増加せしめざることを期し更に進んで其總額を遞減することに努むべし。

**八、金解禁の斷行**　金解禁は國家財政及民間經濟の建直しを爲す上に於て絶對必要なる基本要件たり。是卽ち我が財界を安定し其發展を致す唯一無二の方途なるを信ず

**九、社會政策の確立**

**十、その他の政策**　敎育機能の更新、中央地方稅制の整理、義務敎育費の增額、農漁山村經濟の改善、中小農工商に對する金融機能の整備。

等々々、併して之が基礎として非募債政策と減稅を斷行し民力休養と國力充實を期すとの大ラッパを吹き立てたのである。緣日の叩き賣りもどきに並

べ立てたこの政策を組閣二年有半の今日顧みて、果して何が實現されてゐるか。非募債は募債となり、減税は増税となり、民力休養は民力涸渇となり、國力充實は國運危殆となつて終つてゐるではないか。一切合切嘘だつたのだ。事茲に至つては、我々國民が如何にお人好しと雖も、故濱口氏の人物評價を訂正すると同時に現在若槻男爵に率いられる民政黨に愛憎を盡かさゞるを得ないのである。信頼してゐたゞけに憎惡の念も強く且大きい。以下順を追うて前内閣の僞瞞を白日下に暴露し、光榮ある帝國を破産の危機に陥らしむる如き、勤勉なる國民を餓死線上に彷徨せしむる如き、戰慄すべき危險を再び繰り返さゞらんことを期するものである。

## 嘘の張本は正直濱口

死屍に鞭つ心算はない。けれども、筆者をして假藉なくいはしむれば、謹

直誠實の士濱口雄幸氏こそ嘘の張本人であつた。少くとも、政治家としては、清廉謹直の假面をかぶつた世間一般の政權亡者にしか過ぎなかつた。若しも濱口氏にして眞に謹直なる、眞に公明を旨とする政治家であつたならば、昭和五年十一月東京驛頭で『男子の本懷』と叫んだ途端に辭職をするのが本當である。然るに彼は瀕死の重傷を負ひながら『傷は淺い』と宣傳し、主治醫には虛僞の病狀を公表せしめて、輔弼の大任を完うし得るが如き態を裝つて政權を離さうとしなかつた。人と面會は出來ない、口をきくことなどは無論出來ない、全く世間と隔絕された病院のベツトに呻吟しながら、國政を見たといふのである。正に神樣にあらずんば手品師だ。正直の頭に神宿るとは聞いたが、嘘つきのベツトに神眠るといふことは未だ聞いたことがない——。

議會が迫つて、それを瞞着する必要のために幣原外相を首相代理に仕立てて、一方では再開日までには全快し議會に出席すると眞しやかに觸れ出した

ものだつた。これがためには眞の病狀を傳えた新聞記者を流言蜚語を放つ者として檢束するまでの暴狀を敢てした。所が再開日になつても出席どころか閣僚との面會すら出來ない始末である。卽ち流言蜚語は正直を看板の政府自身が飛してゐたのである。議會では嘘の道具に使つた幣原ロボット首相が、花井博士あたりから痛くキメつけられて脂汗を流してゐる。早く出席して、嘘の嘘ならざる事實を見せたいのであるが、奈何せん、肝腎要の腰が持上らないと來ては、あす出る、あさつて出ると、まるで紺屋もどきの一日延しの嘘をつくより外に途がなくなつた。かうなると、嘘も大びらである。二百七十名の僞造の多數を以て、頰被りなる新熟語すら創作して紺屋式を押し通しやつと蹌踉たる姿を議場に現はしたのは會期も剩す數日といふドタン場であつた。然かも虛僞の正直と僞善の同情を押賣りに、『濱口さん無理をしないでね』を宣傳せしめる爲めにその憔悴した姿を見せに出たに過ぎない。斯くて

議會を濟ませた濱口首相は、豫定通り再入院、再手術『病軀その職に耐へず』と漸く本音を吐いて、内閣を若槻禮次郎男にたらひ廻しゝたのであつた。

これが十大政綱の第一項に掲げた公明なる政治の本體であるとは呆きれざるを得ない。上御一人を欺き奉り下萬民を瞞着し通したものではないか。無理と瞞着の結果、遂に一命にさへ及んだのである。

濱口氏は、多くの政治家がやるやうに、惡錢を身につけることをしない清廉の士だといはれた。三菱といふ大きな弗箱を控へてゐる彼は、惡錢を漁さるやうな危い橋を渡らなくともいゝ顏をしてゐられる身分であつたが、その彼れにして、時の東京商業會議所會頭藤田謙一氏が疑獄事件に連座して司直の手にかゝつた際に、最後まで『濱口を呼べ、首相を出せ』と威張つてゐた事實を何と見るか。問題は何が彼をさうさせたかにある。

嘘は人をあざむくことが出來ても、事實は虚僞の面皮を剝ぐ。

# 嘘で固めた豫算

昭和六年度の豫算編成に當つて、聲を大にして宣傳した行財政整理は全く手がつけられず、海軍費節約による減稅は雀の涙ほどしか出來なかつたのには、流石に良心の苛責に耐へなかつたと見える。民政黨の黨報雜誌『民政』の濱口追悼號にある井上前藏相手記の一文を見よ。

豫算が兩院を通過した時自分は病床の首相に之を報告した。首相は『誠に恥しい豫算を作つて國民にも申譯ない。來年は是非徹底的に行財政を整理して公約を果さねばならぬ』と言はれたので自分も固く奮鬪を誓つた。

と書いてある。にも拘らず世間に向つては何と云つた、立派な豫算だ、完全な緊縮だとその効能を吹聽してゐるではないか。自ら省みて忸怩たる豫算案を自畫自讃するその心事！　之をしも、公明なる政治家といへるか。正直濱口

こそ嘘の張本人なりといつても強ち牽強附會の說ではあるまいではないか。

更に續いて內閣の首班となつた若槻男爵に至つては、夙にウソツキ禮次郞と異名とつたる嘘の總本山だ。强將の下に弱卒なく、嘘の大將の下に正直の子分なし、幣原外相にしろ井上藏相にしろ、法螺を吹かせたら人並以上のインチキ師揃ひである。ウソを吐き通した揚句、大事な味方の安達內相等にまでウソを吐いたゝめとう〳〵あの野垂死となつたのだ。誰が內閣を倒したのでもない。自分のウソでつき倒れたのだ。

## 國を賭けた大賭博

中でも名だゝるインチキ師は、藏相井上準之助氏である。無用意の金解禁といふ政策行詰りの尻ぬぐひに、閣僚にさへ秘密で七億五千四百萬圓の正貨を賣り飛してゐたるが如き、その圖太さは言語同斷、空前絕後の代物である。

即ち、所謂弗買ひとして喧傳される昭和六年九月廿一日（英國金本位制停止日）より十二月廿一日（我が金再禁止）までに行はれた弗合戰に、正金銀行をして、賣應ぜしめた弗の總額は五億千萬圓、之れに昭和五年七月卅一日よりの弗賣高を加へると、實に七億五千四百萬圓の巨額に達してゐるのである。このため海外に流出した正貨總額五億餘萬圓、尚且、未解決のまゝ一億七千萬圓といふ帳尻を新内閣に殘してゐるのだ。これが社會政策的施設には百も出し惜しんだ井上藏相のタツタ一人の意地と面目のため敢行された事なのだ。

國の政治は投機であつてはならぬ、一か八かの賭博ではならぬ。然るに藏相井上は、蓄積されたる我國正貨の大半を投じて、この大賭博を敢行した。彼は口を開けば弗買ひは財閥の思惑だと逆襲する。買ふ者が思惑なら賣る者も思惑ではないか。井上氏が如何に强辯するとも、この驚くべき投機的行爲

が責任政治家の確信的行爲には變化しないのである。彼の言ふ如く弗買ひが賣國的行爲ならば弗賣もまた賣國的行爲である。而も、一は一個人の運命を賭した投機であるが、一は一國を賭した一大投機である。その罪過正に鼠賊と强盜の差がある。

而もだ。かゝる危險を防ぐため禁止してあつた正貨の賣買を解禁したのは井上氏ではないか。解禁した事を大戰爭にでも勝つたやうに手柄顏して威張つたのは井上氏である。それ程の大手柄の結果を利用する事が何で國賊なのか。利用したものが國賊なら之を許した井上氏は國賊の元締となるではないか。我々は弗買を決して褒めはせぬ。だが禁止してあれば弗買は起らぬのだ。論より證據、弗買の總額七億六千萬圓中過半の四億餘萬圓は外國銀行筋の買物ではないか。殘り三億も日本の財閥が買はねば外國人が買ふ。日本に對する愛國心で外國銀行家の經濟行爲が束縛出來るか。國民の愛國心を利用

する彼等のインチキ論理には驚くの外なく、これこそ非國民の標本と言ふべきである。

## 凄い井上の魔術

斯る危險千萬なイカサマをやつてのけて恬然たる男だ。やることなすこと如何にイカサマであつたかは、日本經濟建直しの美名の下に、不景氣のるつぼに叩き込まれて長いこと藻掻き苦るしんだ國民が、誰よりもよく知つてゐる。中でもひどいイカサマは、御親類筋の不良會社とボロ銀行救濟だ。即ち昭和五年九月に氣に入らぬ鈴木島吉氏を追ひ出して、子分の結城豐太郎氏を興銀總裁に据へてから、僅か三ケ月ならざる間に、興銀の割引手形總額一億三千萬圓に達したのである。貸出し額の激增したこと勿論である。然らば、その金は何處へ消えたか？　借金の肩代りをして貰つて北叟笑んでゐるのは、

何々セメントとか何某製紙とかいふ大會社のみである。井上氏にしては口に財界安定を誇稱してゐる手前、之れ等の大會社に倒壞されることは世間態も惡かつたのだらう。そこで世間態をつくろひ、將來何かにつけての恩を着せる一石二鳥の救濟策をとつたのだが、そのために背負ひ込んだ興銀と勸銀の不良貸は約三億に上ると傳へられてゐる。然も一方では漸く勃興の機運にあつた有望な中小商工業が、無殘にも軒並に破產倒壞の悲運を見たのである。

更に彼は頻りに貿易尻の好轉と財界安定を說いて、盛んに金解禁の効能をならべ立てゝゐた。が、事實はどうだ。金解禁前、昭和四年度に於ける海外貿易は――(單位千圓)

| | |
|---|---|
| 輸出 | 二、一四八・五五一 |
| 輸入 | 二、二一六・一五七 |
| 合計 | 四、三六四・七八八 |

差引入超　六七・六〇六

であつたのであるが、金解禁の昭和六年度の貿易は約半分に激減してゐる。即ち、

| | |
|---|---|
| 輸出 | 一、一七九・二九四 |
| 輸入 | 一、三一九・一三三 |
| 合計 | 二、四九八・四二七 |
| 差引入超 | 一三九・八三九 |

となり、貿易尻好轉どころか、昭和四年の入超額六千七百六十萬六千圓に對して、昭和六年には實に一億三千九百八十三萬九千圓の巨額に達してゐるのである。輸出入總額に於て約半分、しかも入超に於て約二倍、これがどういふ勘定になるかは小學生でも分る。財界が安定し景氣が直り樣はないではないか。

## 非募債は募債に豹變
## 減税の代りに増税

財政計畫に於ても其の通りだ。前にも書いた如く十大政綱に於て「政府は昭和五年度以降一般會計に於ては新規募債を打切るべく、特別會計に於ても其年額を半額以内に止むべし」と宣明し、非募債主義を金看板としたるにかかはらず、赤字から赤字の連續に耐へ切れずに、震災善後公債その他の名目で公債を募つて辻褄を合せてゐたが、昭和七年度豫算編成には愈々苦しくなつて――（單位千圓）

| | |
|---|---|
| 一般會計の分 | 一二三、九一九 |
| 内譯 電話事業公債 | 一七、五一〇 |
| 震災善後公債 | 七、六七〇 |

| | |
|---|---|
| 道路公債 | 一、〇〇〇 |
| 電信事業公債 | 、九二五 |
| 歳入補塡公債 | 九六、四二四 |
| 特別會計の分 | 六七、五四〇 |
| 内譯 鐵道公債 | 四九、〇〇〇 |
| 朝鮮事業公債 | 一四、九四〇 |
| 臺灣事業公債 | 三、〇〇〇 |
| 關東洲事業公債 | 、六〇〇 |

一般特別兩會計を通じて、實に一億九千百萬圓餘といふものを公債財源に求めてゐたのである。この外審議中だつた失業公債を加へれば二億五千萬圓にも達する。之を昭和四年實行豫算の募債額九千百廿一萬圓餘と比較せば實に一億五千萬圓の激增を示してゐるではないか。羊頭を掲げて狗肉を賣ると

いふもおろか。國民が知らぬ間に何時の間にか非募債主義の看板がケシ飛んでゐたのだ。我等また何をかいはんや、たゞ啞然たるのみだ。然も昭和七年度豫算に於ては、この大募債によつても猶且歳入不足を補ひ得ず、約五千萬圓の大增稅を計畫してゐたのである。この增稅たるや、嘘の本山濱口をしてキマリが惡いといはしめた昭和六年度減稅額の四倍にも上るものだ。先刻やつた菓子を倍にして返せといふ子供の喧嘩よりも噴飯ものである。財政斯くの如し。經濟政策斯くの如し、行政整理に至つては當て事と何やらは向ふからハズレるで、さつぱり埒が明かず、徒らに世間を騷がし哀れむべき腰辨失業者の洪水を作つたに過ぎなかつた。

## 井上政策の帳尻

觀じ來れば、井上のインチキには限りがない。在職二ケ年有餘、彼は何を

殘したか。生絲の値下りと農産物の暴落による農民の饑餓と、貿易不振による事業の衰微と、各種事業の荒廢による失業者の大量製産と、而して七億の正貨を失ひ尙もその帳尻り一億七千萬圓を殘し哀れな官吏の月給を削り、國民からは鬼代官のやうに誅求し、然も尙二億圓からの赤字を次の內閣に引繼いだ。恐るべき冒險である。斯くの如き政治家をして、もう半年も藏相をやらせてゐたら、全く我國はゾーショーもなくなつたであらう。酒落れどころの騷ぎでないのだ。

## 前科大臣と綱紀頽廢

「政治をして國民思想の最高標的たらしむるために、政府は專ら政治の公明を旨とし政治の基調を高め……」といひ「近時綱紀の弛緩漸く甚しきものあり、爲に國民思想上不良の影響を及ぼすは蓋し已むべからざる所なり。今に

於て嚴に綱紀を肅正するに非ざれば民風の頽廢遂に濟ふべからざるに到らんとす。政府は深く自ら警めて官紀を嚴肅にし敢て犯すなからんことを期す」と豪語した民政黨内閣である。閣僚は孔子樣みたいな人格者揃ひであるべきだ。然るに、濱口氏の下には拓務大臣であり、若槻氏の下には「脩次郎廢すべし拓務省廢すべからず」と大見得を切りながら、のめ〳〵と鐵道大臣に納まつた原脩次郎氏は、實に市ケ谷刑務所に服役した刑餘者であり、鹽水港事件に社金を横領しては起訴猶豫者であつたのである。

この事が一たび社會に暴露されるや、牧野内府その他側近の高官は痛く民政黨内閣のインチキを憎んで『實に遺憾極る事柄である。斯ることは當人の良心的發動に待つより解決の道がない』といつた意味の感想を洩らしてゐたのであるが、何事も頰かむり主義で押し通す鐵面皮内閣は、畏れ多いことながら大赦の恩典を楯にとつて責任をとることをしなかつた。賄賂投票で服役

した大臣が選擧廓淸を高唱する格好を國民は何と見るか。これが國民思想の最高標的たる政治と言へるか。さればこそ犬養毅氏を內閣組織者として奏薦するに當つて、西園寺公は前內閣の如き人選をせざるやう特に注意する所あつたと傳へられるのである。元老として當然の措置といふべきである。

また政府は深く自ら警めて官紀を嚴肅にし……といひながら、その舌の根も干かぬ間に人もあらうに一國文教の府を司る文部大臣小橋一太氏を瀆職罪として法廷に送り、且つ減俸問題による官吏のストライキを二度までも惹起した。小橋氏の場合は既に無罪の判決が下つてゐるので、我等多くいふことを好まないけれども、その國民思想上に與へた悪影響といふものは、刑餘者の大臣に優るとも劣るものでないことを確信する。更に二回に亘る官吏のストライキは、一度は嚴肅なるべき司直の事務を全く停頓せしめ、一度は全國の鐵道、電信、電話を停止せんとした空前の一大聯合爭議ではなかつたか。

我が國に起つた爭議で之れより大なるものは他にない。否、かゝる官吏のゼネストは世界にない。官吏と雖も人間だ、生活に脅威を受ければ敢然起つ。之れを未然に防ぎ得なかつた政府の無權威！　然も彼等ブルジョア政治家どもの常に恐れてゐる「團結の力」を徹底的に國民に敎へ込む結果となつたのである。失政といはんより寧ろ亡國的悲劇である。斯る悲劇的犧牲を拂ひ、一度は屈辱的に減俸案を撤回し、二度目は妥協に妥協を重ねて、漸く獲得したる財源僅かに八百萬圓といふに至つては、犧牲の餘りに大きく收獲の餘りに小さかつたことに呆然たらざるを得ぬ。

尙この外、無理な人事異動による事務澁滯、黨勢擴張のためのインチキ政策、全く報道を封鎖した未曾有の重大事件等々、綱紀の弛廢は枚擧に遑ないのである。

不景氣による人心荒廢から犯罪者の激增はいふも更なり、共產主義運動の

潜行的擴大には眞に恐るべきものがある。而して若しも滿洲事變が起つて國民的情熱が集結しなかつたならば、大凶作の東北、北海道を中心とした地方には何が起つたゞらう。インチキ政治の害毒やまた極まれりといふべきだ

## お茶坊主外交の始末

噓を以て始まり、噓を以て終つた民政黨内閣に一つの正直がある。それは對支外交方針だ。十大政綱にかゝげた「所謂不平等條約の改廢に關し我が國の支那に對する友好的協力の方針」を只管に守つて、打たれても蹴られても裏切られても改變することをしなかつた。馬鹿正直である。世間これを幣原外交と稱し、軟弱外交といふが、何んのことはない。お茶坊主外交だつたのである。機嫌氣褄を取り結ぶことにのみ汲々として、解決しなければならぬ重大懸案は積り積つて、二百有餘件に達した。陸軍が腹に据へ兼ね、國民が

承知しなくなつたのも無理ではない。

滿洲事變の第一報が到着した九月十九日の朝の幣原外相の狼狽ぶりたるや笑止千萬なものがあつたといはれる。お茶坊主外交の本性を現はして、軍部に泣きつくことにのみ血眼になつて、本職であるべき國際聯盟方面への報告は全く忘却してゐた。或ひは驚駭動顚の餘り執るべき方途を辨へなかつたのかも知れないが、我が芳澤代表の手に外相よりの報告が入つたのは實に事變後三日してからであつた。地球から太陽に打つ無電ぢやあるまいし、斯る大事件の報告が東京からジュネーブまで三日かゝるなんてことは、今の世にあるまじきことである。

一方支那のラヂオは當り前に敏速であつた。事變即日所謂支那流の宣傳をこきまぜた報告をどし〳〵送つたので、何も知らない國際聯盟理事會は無條件に支那側の報告を信じた。好意的に芳澤代表より眞相を聽かうとしても、

本國から報告がないとのみで新聞電報以上のことはいはぬ。事實報告がないのだから説明しようにも説明のしやうがないのであるが、聯盟委員はさうは思はぬ。いよ〳〵日本が臭い。日本が滿洲を占領するだらう……そんな先入觀念を與へて了つたので、聯盟理事會は未曾有の紛糾を來し、遂には十三對一の窮地にまで追込まれて終つたのである。組閣の始めに彼等は何と言つた。「幣原外相の信用をもつて國際協調の上に我世界的地位を安定せしめる」と豪語してゐるではないか。十三對一と言ふ國際協調がどこの世界にあるか。國際協調どころか國際的絶對孤立である。これがため在滿の帝國軍隊はどれだけの無駄骨を折らされてゐる事か。

## 噓吐き退治の一戰

斯くて、外に滿洲事變の紛糾するあり、內に正貨流出の不始末あり、二百

七十の僞造の多數を擁して二年半に亘つて嘘をつき通した民政黨內閣も、遂に兜を脫がなければならぬ時が來た。安達一派の協力內閣運動がなくとも、倒壞しなければならぬ運命だつたのである。協力騷ぎがなかつたら若槻も井上もイヤ民政黨そのものも未來永劫浮ぶ瀨がない深淵に叩きこまれてゐたに相違ない。それ程事態は切迫してゐたのだ。

時恰も總選擧――我々はこの機會にこそ、二年半に亘つて我々を生活苦に喘がしめた民政黨を徹底的に淸算しなければならぬ。この機會にこそ、光榮ある帝國を破產の危地に陷らしめた民政黨を掃蕩しなければならぬ。嘘吐き退治の大事な一戰である。

正しき一票の行使こそ、この大目的を貫徹する唯一無二の途である。

## 景氣を作る正しき一票

國民はこの標語を高く揭げてこの一戰に目的を達しなければならぬ。(畢)

# 附錄　高橋藏相演說（要旨）

（昭和七年一月廿一日貴族院にて）

昭和四年七月濱口內閣の成立するや、金解禁を以て主要政綱と爲し、是が遂行の準備として財政の緊縮、國債の整理、消費の節約を強調し、豫算に付いても極端なる節約緊縮を實行したのであります。是が爲に我が經濟界は日に月に不況に沈淪し産業は衰頽し物價は暴落して農工商等の實業に從事する者は、苟くも物を作れば損失を招き之を賣れば更に其損失を加ふるの有様でありました（拍手）（中略）然るに井上前藏相は、米國の恐慌は其金利を低下せしむべきを以て、我國が金解禁を爲すも正價流出の憂なきに至りたるものと推斷し、天佑と迄稱して此時を選んで金解禁の決心を堅め（拍手）同年十一月二十一日に至り大藏省令を公布し、昭和五年一月十一日を以て愈よ金輸出禁止の解除を斷行したのであります（中略）然るに解禁後に於ける實情は悉く前內閣の豫測に反し財界の不況益々深刻となり（拍手）物價は低落して止まる所を知らず（拍手）産業の不振は極度に達し、社會思想上憂ふべき現象を呈し、（拍手）租稅公課の負擔は實質上益々重きを致し（拍手）殊に正貨の流出は前內閣の聲明を裏切つて（拍手）甚しき巨額に上り、爲に金融は逼迫し、經濟界の極端なる不振不況は、延いて國家及地方財政の窮乏と

なり、前内閣の方針に反したる公債又は借入金を以てするにあらざれば、歳計上收支の均衡を得る能はず、昭和五年度、六年度の歳計は、孰れも議會に於ける言明を裏切り（拍手）巨額の歳入不足を生じ、殊に昭和七年度豫算の如き、前内閣の計畫に依るも一億三千萬圓を越ゆる公債を發行し、其上に五千六百萬圓以上の増税を行ふにあらざれば、（拍手）豫算を編成する能はざるに立至つて居つたのであります。即ち前内閣の金解禁政策並に其後の財政經濟策は總て所期に反し、我が國民經濟は極度に困憊し、前途暗憺たる狀態に陷つたのであります（拍手）斯くして若槻内閣倒れ、現内閣の成立を見るに至りましたが、現内閣は是等各般の情勢に鑑み、組閣後直に金輸出の再禁止を斷行したのであります（拍手）即ち我々は之を以て時局匡救の第一歩と信じたるのみならず、當時の我國の實情は當局の好むと好まざるとに拘らず、到底金本位を維持し難き情勢に在つたのであります（拍手）（中略）

政府は金解禁當時は勿論其後議會に於ても解散後の總選擧の際に於ても尚三億圓の在外正貨は現然として保有せられ居るものの如くに宣傳して國民を欺いたのであります。

隨つて一月十一日解禁實施後、在外正貨賣却の要求に對しては、十分之に應ずるの餘力無く、結局海外への送金は正貨の現送を爲すより外なきこととなつたのであります。金解禁後僅に十日卽ち一月二十一日には外國銀行先づ現送を開始し、同三十一日以後は內外の銀行續々と正貨の現送を實行し、一月より六月迄の半箇年間に、約二億二千五百萬圓の正貨の流出を見、解禁當時の聲明の全然虛僞であつたことが曝露されたのであります。（中略）昭和五年下半期以後財界の悲觀は愈々強まり、又內地の變態的金融緩漫の影響として、日本の外貨公債に對する投資其他の資本逃避額は漸く增加し、正金銀行の統制賣は、是が爲め甚だしく增加しました、依つて正金銀行は是が決濟の爲め、昭和五年九月二十六日以後正貨の現送を開始し、十二月迄に合計六千十八萬餘圓を現送しました、斯くして解禁第一年の正貨流出高は實に合計三億八百餘萬圓の巨額に達したのであります（拍手）

昭和六年に入りまして金融界は異常の緩漫狀態を呈し外貨邦債の利廻りは內國債に比し遙に有利となりたる爲め、外債の買付激增し正金銀行の統制賣は之に應じて增加せざ

るを得ざるに至りました、殊に七月に入るや、ドイツ財界の破綻曝露し、九月十八日には滿洲事變勃發し、同二十一日に英國の金本位停止を見るに至り、弗買の需要は猛然として起り、正金銀行に殺到して來たのであります、故に前内閣に於ては熟慮省察、斷乎として其の非を改むべき時機に遭遇したのであります。卽ち形勢甚だ非なることを察して金の輸出を禁止するか、左もなければ資本の流出及爲替の思惑を取締るべき立法乃至は行政上の手續を講ずべきであつたのであります。(拍手)然るに前内閣は行懸り上依然として正金銀行をして統制賣を續行せしむると云ふ最惡の方法を選んだのでありまして(拍手)吾々は如何にしても其理由を知るに苦しむのであります。果して其金融は日に激增して底止する所を知らず、僅の期間に三億數千萬圓の巨額に上るを見て、當局も漸く其結果の重大化せるに驚かざるを得なかつたのであります(中略)されば政府は遂に正金銀行をして統制賣を中止せしむるの外なかつたのであります、然れども其時既に統制賣の總額は七億五千四百餘萬圓の巨額に達して居つたのであります、内閣更迭の際には、未決濟殘高尙ほ二億餘萬圓を存し、全く收拾することの出來ない事態に陷つて

居つたのであります、此未決濟の分に對し前内閣當局は、内閣が依然存續して居つたならば、解合を爲さしむることが可能であつたと云ふことを强辯して、其責任の回避に努めて居りますけれども、一昨年七月末以來昨年十二月初旬に至る迄、常に政府は解合を要請し殊に昨年十月以後に於ては非常なる金融上の壓迫を加へて之を强要したるに拘らず解合の行はれた總額は、三千萬圓にも足らざる少額なりしことに依つて之を察するも、殘存額の解合の不能なりしことは明白なる事實であります（拍手）殊に此不能なる解合を强制せんと欲して、一般財界を壓迫し、産業を死滅に瀕せしめ、年末に際して經濟界に恐慌狀態を惹起するも意に介せざりしが如き、無謀の甚しきものと謂はざるを得ませぬ。（拍手）

抑〻前内閣當局ず、爲替統制賣を行はしむるに當り、日銀及正金首腦部と所謂「話し合ひ」を爲したるに止まり、政府の決定として正規の手續を踏まず、獨斷專行、而も秘密裡に此冒險を敢行したることは明かであります（中略）要するに斯の如き難問題を今日に殘したるは、全く前内閣が無謀に、而も國民の耳目を掩蔽して、正貨に對する一大




投機を行はしめつゝありたる結果なりと斷言せざるを得ないのであります（拍手）以上の如く前内閣は不自然なる金解禁を行ひ其經濟上に及ぼす甚大なる打擊に對して適切なる方策を講ずることを知らず徒に糊塗補綴を事として益財界を萎微沈衰せしめたのであります。而して金の輸出再禁止は必至の勢であつたに拘らず自己の面目に囚はれて强て之を維持せんとし、遂には弗買者を以て非國民の如くに宣傳するに至つたのであるが世間に於て斯の如き非條理なる宣傳に欺かるるものの少からざるは誠に慨嘆に堪へませぬ。國民の爲替取引に關する知識に乏しきを利用し經濟上の理論に基かず事實に合せざる議論を以て妄りに感情に訴へ少數資本家を國民の怨府と爲し社會の調和を破壞するをも意とせざるが如きは誠に國家に對する一大罪惡と申さねばなりませぬ（下略）

昭和七年二月三日印刷
昭和七年二月六日發行

民政黨罪惡史
〔定價金十錢〕

著作發行兼印刷人　東京市麴町區中六番町廿七番地　梶野正義

印刷所　武俠社印刷部

發賣所　東京市芝區南佐久間町二丁目十番地　武俠社

